

(1) 本時のねらい

【5年生】詩を味わおう 教材名「未確認飛行物体」(2/3時)

「～の上を」や「～の下」の繰り返しのリズムを感じながら音読したり、「心もち身をかしげて」などの言葉について話し合ったりすることで、薬缶のけなげさが伝わる表現のよさを読み取ることができる。

【6年生】詩を味わおう 教材名「船」(2/3時)

詩を音読したり表現のよさや発想のおもしろさについて話し合ったりすることで、促音や「な」の繰り返しや「地球をさらう」などの擬人法に気づき、文明に対する作者の思いを読み取ることができる。

(2) 展開案

過程	五年生の学習活動	評価について	教師の指導・援助	六年生の学習活動	評価について
導入	<p>○本時の課題を確認する。</p> <p><b>詩「未確認飛行物体」の表現のよさを読み取ろう。</b></p> <p>○詩「未確認飛行物体」を音読する。</p> <p>○詩「未確認飛行物体」の表現のよさについて感想を書き、話し合う。</p>	<p>丁寧に課題が書けているか評価する。</p> <p>・ノート</p>	<p>← 学習リーダーに本時の課題を打ち合わせしておく。</p> <p>→</p>	<p>○本時の課題を確認する。</p> <p><b>詩「船」の表現のよさや作者の思いを読み取ろう</b></p>	<p>丁寧に課題が書けているか評価する。</p> <p>・ノート</p>
展開	<p>○詩「未確認飛行物体」の表現のよさについて感想を書き、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「町の上を、畑の上を、また、次の町の上を」で「～の上を」という表現を繰り返すことで、遠い他の場所の上も飛んでいく様子がわかるし、リズム感があって読むとき気持ちいい。</li> <li>「天の河の下、渡りの雁の列の下、人工衛星の弧の下を」の「～の下」という繰り返しも同様である。</li> <li>「～の上を」という部分と「～の下」という部分が、対比して書いてあって空間的な広がりを一層感じさせる。</li> <li>「心もち身をかしげて」「一生けんめい」「息せき切って」「水をみんなやって」の言葉が響き合って、けなげな薬缶の様子がわかる。</li> <li>一連と内言語がユーモラスな感じがする。</li> </ul>	<p>以下の詩の表現に基づいて、発言しているかどうか評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「町の上を、畑の上を、また、次の町の上を」</li> <li>「天の河の下、渡りの雁の列の下、人工衛星の弧の下を」</li> <li>「心もち身をかしげて」「一生けんめい」「息せき切って」「水をみんなやって」</li> </ul>	<p>← 本時の学習活動を板書しておく。「味わう」とは、表現と作者の見方考え方の2観点で読み取ることを確認する。</p> <p>→</p> <p>← 五年生へは「味わう」ための観点として表現のよさについて話し合わせることを指導する。また六年生へは表現と作者の発想のよさの両方の観点で話し合うように明確に指示をする。</p> <p>→</p> <p>← 表現に基づいて読みとっている児童の姿の良さを価値付ける。</p> <p>→</p> <p>← 表現や発想のよさの気づきにとどまらず、自分の考えを付け加えて述べている姿を価値づける。</p>	<p>○詩「船」を音読する。</p> <p>○詩「船」の表現のよさや発想のおもしろさについて感想を書く。</p> <p>○詩「船」の表現のよさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「文明諸君」という擬人法</li> <li>「のっかる」「すったもんだ」「さらって」などの促音の繰り返し</li> <li>「なんとか発明できないことはないだろう」の「な」の繰り返しによるリズム</li> </ul> <p>○詩「船」の発想のおもしろさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地球ののっかる船」という発想</li> <li>「地球をさらう」という発想</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>「すったもんだのこの世の中」についてどんなことがあるか具体的な事例について話し合わせたい</li> </ul>	<p>以下の詩の表現に基づいて、発言しているかどうか評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「文明諸君」</li> <li>「のっかる」「すったもんだ」「さらって」</li> <li>「なんとか発明できないことはないだろう」</li> <li>「地球ののっかる船」</li> <li>「地球を・・・さらって」</li> <li>「すったもんだのこの世の中」について具体的な事例で話しているか評価する。(発言)</li> </ul>
終末	<p>○詩「未確認飛行物体」の表現のおもしろさを感じながら音読する。</p> <p>○友だちと話し合ったり音読したりして感じた詩の感想を書き、発表する。</p> <p>「最初に読んだときは・・・だったが、友だちと話し合ってみて音読してみても・・・ことがわかった。」</p> <p>○次の評価の観点で自己評価をし、次時の課題を確認する。</p> <p>A…言葉のリズムと言葉の適正さという表現のよさが読み取れた。</p> <p>B…リズムか適正さのいずれかが分かった。</p> <p>C…どちらも理解できなかった</p>	<p>「～の上を」や「～の下」の繰り返しのリズムを感じながら音読しているか評価する</p> <p>・観察(音読)</p> <p>話し合われたことで、自分の考えが変わったことがノートに書けているか評価する。</p> <p>・ノート</p> <p>・発表</p> <p><b>言葉のリズムや対比や擬人的表現など詩の表現のよさを理解できた</b></p>	<p>← 詩の言葉の響きや適正さを味わわせるために音読させる。</p> <p>→</p> <p>← 音読したり話し合ったりしたことで表現のよさや発想のおもしろさに気づけたという感想を発表している児童の良さを価値付ける。</p> <p>→</p> <p>← 自己評価がBやCの児童には授業後個別に指導する。また、表現に着目する力の弱い実態があれば次の活動に生かす。</p>	<p>○詩「船」の表現のよさや発想のおもしろさを感じながら音読する。</p> <p>○音読したり友だちと話し合ったりして感じた詩の感想を書き、発表する。</p> <p>「最初に読んだときは・・・だったが、音読してみても・・・ことがわかった。」</p> <p>○次の評価の観点で自己評価をし、次時の課題を確認する。</p> <p>A…表現のよさと作者の思いがわかった</p> <p>B…表現のよさか作者の思いのいずれかが分かった</p> <p>C…どちらも理解できなかった</p>	<p>促音や「な」の繰り返しのリズムを感じながら音読しているか評価する</p> <p>観察(音読)</p> <p>話し合われたことで、自分の考えがどう変わったかがノートに書けているか評価する。</p> <p>・ノート</p> <p>・発表</p> <p><b>擬人法など表現のよさや「地球をさらう」という作者の思いがわかった</b></p>